

年頭所感



診療局長兼
血液内科部長

鳥野 隆博

明けましておめでとうございます。

診療局長となり1年を過ぎました。今年も医局員と幹部の間に立ち、風通しのいい環境を作りながら、ハード・ソフト面の充実を図り、病院一丸となって地域の皆さまに最良・最適な医療を提供したいと思っております。また、血液内科としては昨年5月に非血縁者骨髄移植・骨髄バンク認定施設として再認定されました。そこで血液疾患に関しても、この泉州地域で完結できる医療を提供していきたいと思っております。本年も宜しくお願い申し上げます。



総合内科・感染症内科部長兼
感染症センター長兼
院内感染対策室長兼産業医

倭 正也

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

日頃より当診療科に対し多大なる御協力ならびに御支援を賜り誠にありがとうございます。近年、抗菌薬が効かなる薬剤耐性(AMR)感染症が世界的に拡大し、公衆衛生および社会経済的にも重大な影響を与えています。皆様方にも御協力いただき、この地域全体の抗菌薬の適正使用に尽力させていただきます。皆様も何卒よろしくお願い申し上げます。



膠原病内科部長兼
リウマチセンター長

入交 重雄

新春のお慶びを申し上げます。昨年は地域医療に関する方々、院内各部門の方々からのご協力を頂き大変お世話になりました。御礼申し上げます。微力ながら今年も南泉州地域の膠原病内科・総合内科感染症内科・国際診療科の領域で貢献できるよう努めます。本年も宜しくお願い申し上げます。



糖尿病・内分泌代謝内科部長兼
リハビリテーションセンター副センター長

榎根 晋

新年あけましておめでとうございます。

昨年は当科メンバーの増員に伴い、糖尿病患者様、内分泌疾患の患者様を積極的に受け入れることができました。また医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士など多職種がチームとなって糖尿病診療を行うことができる体制が整いつつあります。本年はさらに体制を充実させ、泉州地区の糖尿病診療、内分泌疾患診療に貢献してまいりたいと思っております。何卒よろしくお願いいたします。



肺腫瘍内科部長

森山 あづさ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。体調を崩し、昨年の春まで長期に休んでおりました。初めての検査や入院で、怖いほど患者さんの気持ちに身染み、体力的にも精神的にも不安な日々を送っていました。しかし、幸い体調も安定し、周囲の多くの皆様のご協力の下、現在は化学療法室で外来化学療法を中心に治療を開始しています。

オバマ大統領が演説したプレジジョン・メデイシンよろしく多くの情報を患者さんに届けながら化学療法室を充実させてゆくことを願っています。今年も宜しくお願いします。



認知症ケアセンター長兼
神経内科部長

宗田 高穂

医療崩壊が叫ばれるようになって久しくなりましたが、改善の見通しはいまだに立っていない状況です。この南泉州地域も例外ではなく、特に内科系医師の不足は数年来からの懸念事項となっております。

神経内科におきましても、りんくう総合医療センターで1名の人員での診療を余儀なくされています。少ない人員であっても診療の質を落とすことなく、良質な医療を提供できるよう努力してまいります。微力ながら南泉州の医療に貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



診療局長補佐兼
循環器内科部長

武田 吉弘

明けまして、おめでとうございます。旧年中は、救命センター、りんくうの当直の先生方の御協力のおかげで、緊急カテーテル治療数が大幅に増加しました。本年も宜しく御願申し上げます。



消化器内科主任部長

大西 亨

新年あけましておめでとうございます。旧年中皆様から受け賜りましたご厚情とご尽力に対して心より御礼申し上げます。私は昨年春より数年ぶりの常勤消化器内科医として当院に赴任してまいりました。マンパワー不足の解消にはいまだほど遠い状況ですが、本年1月からは内視鏡常勤医も一人赴任となり対応可能な症例を増やしたいと考えております。今後も泉州地域の医療に貢献できるよう努力、精進する所存ですのでどうか宜しくお願いいたします。





診療局次長兼がん治療センター長兼
外科主任部長兼
医療安全管理室長
位藤 俊一

新年あけましておめでとうございませう。旧年中は各診療科、薬剤科、看護局、検査科、リハビリテーション科、地域医療連携室、診療情報管理係、相談支援センターや医師支援秘書をはじめ、様々な部門の皆様にご協力いただき、素晴らしいチーム医療を実践することができました。この場をお借りしてこころより感謝いたします。本年も厳しい中にも楽しさを共有できる、りんくう総合医療センターの強みを生かしたプロフェッショナルなチームとして、柔軟かつ大胆な発想を展開いたします。地域の先生方からご紹介いただく手術症例等への対応はもろろのこと、最新のデータやエビデンスを吟味し、テーラーメイドの診断、治療を、的確かつスピーディに提供できるよう、日々邁進していく所存です。本年もご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



診療局長補佐兼
外科部長兼
栄養管理センター長
飯干 泰彦

あけましておめでとうございませう。当院は泉州地区だけでなく、関西でも数少ない小児外科専門医・指導医の常勤する施設です。疾患としては、小児単径ヘルニア、臍ヘルニア、乳児痔瘻、尿管遺残等の日常疾患はもろろん、虫垂炎、腸重積、肥厚性幽門狭窄症等の急性腹症まで幅広く扱っております。昨年、当院の虫垂炎



Acute Care Surgery 副センター長兼
外科部長
山村 憲幸

治療、尿管管遺残治療は小児外科の国際学会PAPSでも取り上げられ、注目を浴びました。当地域の小児医療に少しでも貢献できるよう努力していく所存です。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

新年あけましておめでとうございませう。昨年の『今年の漢字』は『金』でしたが、第3位は『変』だったそうです。昨年といえば、新しいアメリカ大統領が決まり、英国のEU離脱、鳥取・熊本での天変地異。身近な所では紅白歌合戦も世代交代で古株の歌手は落選の憂き目を見たとの報道もあり、まさに『変化』の一年でした。私が2008年に当院へ赴任させて頂き9回目の年始を迎え、来年は10年目の節目の年になります。宮崎駿の映画『風立ちぬ』で『創造的な人生の持ち時間は10年だ』と言ったセリフがありますが、私の赴任当初からしますとたくさんの先生方が赴任され、活気にあふれ、再び当院は硬かった蕾から大輪の花を咲かそうとされています。今後、当院が泉州地区の皆様へ頼られる『一つだけの花』になることを願ひ、微力ながらその肥料となるべく更なる精進をしまいにいたします。本年も宜しくお願ひいたします。



高度脳損傷・脳卒中センター長兼
脳神経診療部長
萩原 靖

早いもので脳神経診療部を引き継いで既に1年以上が経過しました。昨年は脳神経外科を志す新メンバーが3人加入し、医局が大きく発展した1年でした。1年間の手術件数は昨年を大きく上回り、南大阪一带の脳卒中診療の中心へ、また一歩近づいたという手応えが感じられます。医師・ナースをはじめ、粉骨砕身の働きで陰ながら支えてくれたスタッフには、感謝に絶えません。

いつもながら思い出すのは、「病院で最も大切な部分はヒトである。」という言葉です。病院とは、箱ではなくヒトで作られています。巡り合った優秀で情熱ある仲間たちとともに、今年も戦って行こうと思っております。



脳神経外科部長
出原 誠

2016年の脳神経外科は増員に加え、メンバーが大きく変わり総勢7人とパワーアップしております。当科の救急受け入れは救命救急センターと連携し、脳卒中や頭部外傷患者数が増加しております。脳血管内治療(カテーテル治療)は脳血管障害治療の主流となりつつあり、当科は大阪でもトップレベルの件数となつてきています。脳腫瘍に関しても、良性、悪性を問わず積極的に治療を行っています。2017年も泉州地区の基幹病院として、質の高い脳神経外科治療ができるよう精進してまいります。



ICU/CCU部長兼
心臓血管外科部長
船津 俊宏

新年あけましておめでとうございませう。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年7月に当センターに赴任し、半年が経過いたしました。外科医は手術が本職ですが、20年余もやっておりまして、自らのやり方、こだわりがどうしても出てまいります。周りのスタッフには、温かくそれを受け入れていただき、感謝しております。循環器疾患を扱う我々にとって、この寒い時期は、いつ緊急の患者さんが発生・搬送されるかもしれない緊張を感じる毎日です。心臓血管外科は3名と少人数ですが、当地域の住民の、一人でも多くの救命に貢献できるよう、本年も一層頑張りたと思います。皆様方へますますのご支援をよろしくお願ひいたします。



整形外科部長兼脊椎センター長兼
リウマチセンター副センター長
金澤 元宣

りんくう総合医療センター整形外科は、大阪大学整形外科教室の関連施設として脊椎外科グループおよび股関節診療グループより脊椎外科および人工関節専門医が赴任し、脊椎センターおよび人工関節センターを併設し脊椎、関節疾患に対して高度な専門的手術治療を中心とした診療を行えるよう日々切磋琢磨しております。人工関節センターでは、膝関節、股関節疾患に対してより専門的な治療を開始しております。特筆すべき点は先進医療としてナビゲーションシステムに